

南部 沼隈エリア

東西南の三方を海に囲まれた沼隈半島では、海にかかわる文化財が豊富です。海にせり出したお堂、干拓の歴史を物語る樋門、島の暮らしを物語る漁具など、沼隈エリアならではの地域性が感じられます。また、平家谷では源平合戦にまつわる伝説が残され、内陸部で中世に開かれた寺院もまた、地域の歴史と独特の趣を今に伝えています。



磐台寺観音堂



301・302・303 磐台寺観音堂 / 磐台寺客殿 / 磐台寺回廊鐘楼

指定種別：国重要文化財 / 県重要文化財 / 市重要文化財 所在地：沼隈町能登原(磐台寺)
見学情報 **P** **WC** 開門時間 / 8:00 ~ 17:00, 無休, 拝観料 / 100円, 小学生 50円



阿伏兔(あぶと) 観音として知られる磐台寺は、暦応年間(1388~1342)の開基で、元亀年間(1570~1573)に毛利輝元により再建されたと伝えられます。海にせりだした岩上に建てられた観音堂は、外部は丹塗、内部格天井には藤井松林による極彩色の百花図が描かれており、組物など細部は室町時代最末期の様式をよくあらわしています。

客殿は、元亀年間に観音堂とともに再建されたと伝えられます。中央に仏壇の間を設け、左右に書院と奥の間を配した禅宗の方丈建築で欄間の意匠もすぐれています。

回廊は観音堂と客殿をつなぐ建物で、棟札には「再興寛文七(1667)季八月十日」とあります。当時の用材として残っているのは、瓦、柱、梁、石段で、石段の幅には一部後世の変更がみられます。鐘楼は十返舎一九や歌川広重の版画にもみられます。

304 能登原八幡宮鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町能登原
(能登原八幡宮)

高さ 3.50m, 笠木の長さ 3.44mで、特徴は笠木の両端が反り上がり、鳥がとまっているように見える「鳥衾(とりぶすま)」を載せていることです。1724(享保 9)年に建てられ、「石工和泉吉三郎」の銘があります。泉州石工による作例は、県内では二十数例が知られています。

305 草深の唐樋門



指定種別：県史跡
所在地：沼隈町草深

江戸時代初期の寛文年間(1661~1673)に磯新涯(いそしんがいの干拓に伴い建設されたもので、樋の堂と呼ばれる建物と、床下の樋門の部分からできています。かつては潮の干満に合わせて樋門を開閉し、干拓地への海水の流入防止と、排水を調節する役割を果たしていました。現在は樋門の開閉はしていませんが、瀬戸内海沿岸の干拓造成を知るうえで貴重な産業遺跡です。

306 光照寺山門



指定種別：県重要文化財
所在地：沼隈町中山南
(光照寺)

見学情報 **P**

光照寺は浄土真宗の中国地方における中核的な寺院で、鎌倉から山南に入った明光上人らによって 1320(元応 2)年に建立されたと伝えられます。山門は、1613(慶長 18)年の棟札があり、様式上も江戸時代初期と考えられます。当初の彩色はほぼ完全に残っており、禅宗様を基調とした意匠の優れた門です。

307 光照寺鐘撞堂



指定種別：県重要文化財
所在地：沼隈町中山南
(光照寺)

鐘撞堂は 1613(慶長 18)年の創建で、後世の改造は天井を一部張り替えたのみで当初の姿をよくとどめています。県内では最も古く、規模の大きな四脚鐘撞堂の一つです。市重文の銅鐘は、慶長 18 年の年号と、羽柴左衛門大夫正則(福島正則)と代官間島美作守の名が刻まれています。

308 延広神社鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町上山南
(延広神社)

高さ 4.25m, 笠木の長さ 3.80mで、笠木の反りが少なく、柱の内転びが小さい古様式を残しています。柱の銘文によると、1616(元和 2)年に山南村惣氏子が寄進し、鞆石工文造作とあります。

309 亀山八幡神社鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町草深
(亀山八幡神社)

見学情報 **WC**

高さ 4.09m, 笠木の長さ 3.71m, 笠木に「鳥衾(とりぶすま)」を載せていますが右側は欠けています。銘文には、1723(享保 8)年に尾道石工・平三郎が造り、草深の惣氏子が寄進したことが刻まれています。

310 常国寺建物（唐門・鐘楼・番神社本殿）

指定種別：市重要文化財 所在地：熊野町（常国寺）

見学情報 **P WC**



常国寺は、文明年間（1469～1487）に日親上人が開基し、一乗山城主渡辺越中守兼（かね）が菩提寺として創建したと伝えられています。指定の3棟はいずれも常国寺中興の江戸時代中期、元禄（1688～1704）頃のもので、唐門は元禄頃の再建で正面棧唐戸は前身の建物の戸が使用されたと考えられ、鏡板の桐文薄肉彫りは優品です。鐘楼は福山藩家老水野玄蕃の母が施主となって建立されました。番神社本殿は覆屋に納まる小社で棟高2.87mを測り、元禄時代の様式をよく伝える社殿です。

311 一乗山城跡

いちじょうざんじょうあと



指定種別：市史跡
所在地：熊野町上山田

中世の豪族渡辺氏の居城で、黒木城とも呼ばれます。渡辺越中守兼によって築城され、文明年間から永正年間（1469～1521）にかけて入城したと伝えられます。城は北へ延びる尾根を利用し、南は堀切、北は堅堀で区画し、頂部の南半分を檜台状にした平坦面を設けています。また、郭や石垣、井戸等もよく残っています。

312・313 常国寺のケヤキ / 常国寺のモッコク

指定種別：市天然記念物 所在地：熊野町（常国寺境内）



ケヤキは本州・四国・九州の山野に広く自生するニレ科落葉高木です。常国寺のケヤキは市内では珍しい巨木で、目通り周囲4m、樹高約30mのものを最大とし、これに準じる大きさのものが2本あります。

モッコクは関東以西の暖地に自生するツバキ科の常緑広葉樹であり、常国寺のモッコクは周囲の状況から自生と判断されます。根回り2.19m、地上1.3mで2本に分岐し、目通り周囲は大1.86m、小0.63m、樹高約14mを測り、樹勢旺盛、県内屈指の巨木です。

314 熊野の上代土器窯跡



指定種別：県史跡
所在地：熊野町草田

奈良・平安時代の須恵器窯跡で、南東に延びる小丘陵の斜面に築かれています。長さ約4mと推定され、最大幅1.7m、高さ約1mを測り、出土した須恵器には杯、碗を主体として、皿、鉢、甕などがあります。付近にはこの他にも数基の須恵器窯跡があり、瓦も出土しています。隣接する沼隈町山南（さんな）にも同時期の窯跡があります。

315 田尻民俗資料館

たじり



所在地：田尻町1945-2

見学情報 **P WC**

開館時間／9:00～16:00、
開館日／毎週日曜日、年末年始は休館、
団体で平日の入館希望の場合は要事前
連絡 ☎084-956-0219（高島公民館）
入館料無料

1975（昭和50）年に旧村役場を改装、翌年から資料館として開館しました。半農半漁に生き、困難な条件を勤勉さで克服してきた先人たちが残した多くの民具を展示しています。農耕用具、漁撈用具、染織用具、祭祀用具や衣・食・住に関する資料が中心です。これらの内、1022点が田尻民俗資料として県の有形民俗文化財に指定されています。

316 山本瀧之助記念室



所在地：沼隈町常石1810
（ぬまくま交流館内）

見学情報 **P WC** ♿

開館時間／10:00～19:00（土・日・
祝日は～18:00）、休館日／館内整
理日（月1回）特別整理期間、
12/29～1/3、入館料無料
☎084-987-5630（沼隈図書館）

沼隈町草深出身で、青年教育に生涯をささげ、「青年の父」と呼ばれた山本瀧之助の業績を示す資料（市指定重要文化財69点）を展示しています。

317 歴史民俗資料展示室（うつみ市民交流センター）



所在地：内海町88-60

見学情報 **P WC** ♿

開館時間／9:00～17:30、
休館日／毎月第1月曜日・
12/29～1/3、入館料無料

船大工が製作した和船の模型や製作道具、漁具をはじめ、市重文「田島村・横島村近世文書」など、内海町の歴史民俗資料を展示しています。